



東亜グラウト工業は、東北地方で初めてアイスピグ管内洗浄工法が採用されている宮城県内の登米市津山町と大和町鶴巣の下水圧送管洗浄現場を公開した。写真。

東亜グラウト

## 東北初のアイスピグ工法 登米市で現場公開

水装置で製造した特殊アイスシャーパーットを消火栓や空気弁などから注入。圧送するこ

とで、配管内の赤さびなどの付着物を擦り取り、シャーパーット内に汚れを包み込んで排出

洗浄作業は、運搬用デリバリーユニット(特殊運搬装置)車から配管に約4・4トのアイスシャーパーットを注入。注入開始から約30分後には、下流の回収口にマンホールポンプの水流で押し出されたピグが到達した。

出する。従来工法に比べ、施工の伏越部があり、流量が低い。安全性が高く、管内をくまなく洗浄できる。

登米市発注の横山幹線下水道管渠洗浄作業の施工現場で実施したデモンストレーションには、近隣市町村の職員や

参加者らは、回収したピグが汚れを取り込み黒く濁っていることを確認すると、その作業時間の早さと洗浄能力の高さに感嘆の声を上げた。

市の担当者は「市内には1キを越える圧送管もある。今回の結果を踏まえ、アイスピグ工法の採用を検討していきたい」と話していた。

同市は、管路の洗浄に当

り、同工法は長距離かつ複雑

な配管の洗浄に適しており、

作業時間が短いといった特徴

を評価し、採用を決めた。